

第3回可児市地域公共交通協議会 議事要点録

日時 平成25年2月21日(木)

午後2時30分～午後3時50分

場所：可児市役所5階第1委員会室

出席者：(委員) 50音順：敬称略

安藤美喜子 加納 正佳 小山 幸男 佐々木 透 桑下 和弘 佐橋 雅喜
澤田 幸博 品川 湜彦 栃川 敏 林 隆 林 則夫 林 美由樹
門間 實 横田 賢二 若林 拓史

(代理)

小川 敦司(溝口明宏委員) 増田 久美子(鍋島寿委員) 吉留 敏郎(木村治史委員)

(事務局)

総合政策課長 牛江 宏 総合政策係長 肥田 光久
総合政策係主任 渡邊 真史

欠席者： 宮田 博文

1. あいさつ

会長が開会を宣した。

(議事録署名者の指名)

会長から議事録署名者として、安藤美喜子委員と林則夫委員を指名した。

2. 広見東・中恵土地区「電話で予約バス」料金体系の変更について

事務局が資料1に基づき、広見東・中恵土地区で試験運行を行っている「電話で予約バス」について、4月から300円券が11枚綴られた1冊3,000円の回数券と150円券が11枚綴られた1冊1,500円の回数券を販売することを説明した。

委員

自分は第2種身体障害者であり1,500円の回数券を購入した場合、自分の他に介護者である妻もこの回数券を使用してもよいのか。

事務局

一般の方も150円券を2枚出して使っていただいて構わない。

【広見東・中恵土地区「電話で予約バス」について4月から料金体系を変更することについて了承】

3. さつきバス「広見東・中恵土線」の廃止について

事務局が資料1に基づき、現在運休中であるさつきバス「広見東・中恵土線」を4月から廃止することを説明した。

委員

前回の協議会でしらさぎ団地の利用が多いと聞いたが、廃止しても大丈夫か。

事務局

こちらの説明が不足しており申し訳なかった。しらさぎ団地は現在「電話で予約バス」を運行中であり、今回は現在運休中である「さつきバス」を運休から廃止にする届け出を行うためにご承認をいただきたいという意味である。

【さつきバス「広見東・中恵土線」について4月から廃止をすることについて了承】

4. 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅間）について

事務局が資料2に基づき、平成25年度以降の名鉄への財政支援額、財政支援期間や名鉄広見線活性化協議会の取り組みなどについて報告した。

委員

1億円の財政支援とあるが、報道機関の情報にあった御嵩町7千万、可児市3千万で間違いはないか。また、可児市は御嵩町と比べると取り組みが不足しているように見られるが、いかがであるか。

事務局

1点目の質問については、従来通りという枠組みが基本となっている。1億円については活性化協議会が代表して名鉄と協議し存続を決めた3年前に決めた額である。そして1億円の負担割合については、当時の利用者や沿線の人口などを基に積算を行い決定した。今回も同じように検証した結果、1%も変わらない計算結果であったため、今回も7対3という割合については、御嵩町と確認した上で継続していくところである。

2点目については、とらえ方はいろいろあると思うが、そう見えるところがあるということは、反省材料として受け止めたいが、資料2の1頁目に記載したとおり、今後は新可児駅から御嵩駅間だけではなく犬山駅間までの問題ととらえ、名鉄広見線は地域に必要な社会インフラであると位置づけ維持存続により前向きに取り組んでいきたいと考えている。

委員

財政支援は3年間継続とあるが、3年間を一つのスパンとして考えているのか、それとも1年毎に見て大きく軌道修正することもあるのか。

事務局

期間のとらえかたは、例えば高校生を例にとると、1年後にこの路線が存続しているかどうかわから

ない状況では、この路線を使って通学する高校を選択することはないため、そのようなことがないよう安心使っていただきたいという思いがあり、3年より長くというのが活性化協議会としての最初の考えであった。ご質問については、単年度ごとに検証をし、活性化協議会の活動としては次年度にいかすべきだと考えているが、存続自体については名鉄との協議で決定した3年を基本として、1年1年反省し、市民の意向などを聞き、3年目に名鉄と協議し決めていくつもりである。

5. 地域公共交通調査事業の進捗状況について

事務局が資料3に基づき、国庫補助を利用した地域公共交通調査事業について、進捗状況を報告した。

委員

帷子地区のアンケート調査について記載がありましたので、皆さんが誤解しないようにお話しさせていただくが、今回のアンケートは帷子地区の電話で予約バスが入っている、大型団地を除いたわずかな地区のみを対象としたアンケートであり、この結果が帷子地区全体をとらえた結果ではないということをご理解いただきたい。

また、たとえ電話で予約バスが岐阜社会保険病院に行くようになったとしても、東鉄バスが走っている大型団地の人は行くことができないという問題もある。

事務局

10月からの再編については、東鉄バスをどうするといった突っ込んだ話は難しいだろうと考えており、さつきバス、電話で予約バスが中心となった改編にならざるを得ないというところが見えてきたところである。今後は電話で予約バスの運行地区だけではなく、帷子地区全体として各路線が持つ役割を整理しながら、地元の方のご意見も踏まえ利用しやすい公共交通を目指していきたい。

委員

帷子地区アンケートの対象、方法、配布数、回収数などのデータはあるか。

事務局

調査は現在の帷子地区「電話で予約バス」対象地区の全世帯、約900世帯に配布し、105通の回答があった。

委員

課題に電話で予約バスの日曜日などの運行を検討するとあるが、市役所が休みの日に運行すると、市との連携の点が心配である。

事務局

日・祝日などの運行については、まずは役割に応じたサービス水準の検討を行うことが第一であり、その中で日・祝日などに運行するとなれば協議会で承認をいただき、許可申請などを行っていく。

6. その他

委員

さつきバス兼山線については、1日の利用人数が非常に少ないことと、YAOバスと停留所が重なっていることから、兼山地区も電話で予約バスへの切り替えを来年度検討してはどうか。

事務局

1つの提案として受け止めさせていただきたい。地域のニーズなどを確認しながら、方向性をいつかお示ししたい。

7. 閉会

会長から、本日の協議結果について非公開にする部分はないことの確認があり閉会した。